

ほっかいどう NIE 通信

Newspaper in Education 教育に新聞を



発行 北海道NIE推進協議会

〒060-8711 札幌市中央区大通西3丁目6 北海道新聞社内
☎011-210-5802 FAX 011-210-5826

水戸でNIE全国大会

学校から家庭地域へ

活動拡大の意義を確認

「学校から家庭・地域へ広めよう NIE」をスローガンに、第11回NIE全国大会(日本新聞教育文化財団主催、茨城新聞社など主管)が7月27、28の両日、水戸市で開かれた。教育、新聞関係者、地元父母ら約880人が参加、生涯学習の視点から学校、家庭、地域でのNIEの取り組みなどをテーマに活発な意見を交わした。

基調提案では、小美玉市小川南中の石島光夫校長が「学校、家庭、地域の3つのNIEを機能的に実践させることで、人間や社会に関心を持つ子供や大人が増え、結果として活字離れに歯止めがかかり、読解力、社会力が向上するのではないかと提起、教育現場で培われたNIEを家庭や地域に拡大していく意義を強調した。

パネルディスカッションでは、学校、家庭、地域、新聞社それぞれの立場から「明日のNIE」について発言があり、日本NIE学会長の影山清四郎・横浜国立大学教授

が「キーワードは『つながり』。新聞を通して人と人がつながっていくことが大切。論議はNIEが学校外へ踏み出す第一歩となった」とまとめた。大会2日目は、小中高の公開授業、家庭・地域活動を含む5つの分科

会などが開かれた。中でも、スクラップ活動と新聞作りを合体させた、親子による「スクラップ新聞」作り、「NIEで向こう3軒両隣ー新聞でしゃべりたい夢(む)」をテーマに仙台市内で展開されているNIEキャラバンの実践報告が、参加者たちの関心を集めた。

実りの多い二学期に

今年猛暑が続いた。教師は地域の行事や研究会参加、部活動の指導、補習授業などが続き一息入れると二学期のスタート。七月、函館と釧路で地区セミナーが



開かれた。釧路では初めて小学校で理論に裏付けられた授業が公開された。学習の導入には、タイムリーな記事が有効であるとの紹介もあり、新聞という共通の対象をもとにした交流会であった。学校に定着してきた朝読や朝の会、本や新聞を持ち寄り静かな雰囲気での自主学習。輪番制で「今日のニュースから」3分間のスピーチの発表。「社説、コラム、人物史」を読んでワークシートに感想文や意見文の記入。教師が童話やコラムを心に届く声でゆっくりと語りかける読み聞かせは、感性豊かな子どもに語りをしみこませると言う。東北大学の川島隆太教授は、前頭前野を活性化する方法として、新聞の音読を進めている。国語の実践では朗読、暗唱、書写が基本。NIEは人間機能の優れた回復材でもある。学習成果が試される二学期。手元にある新聞を広げ、共有してきた学習材の価値を理解し実践すれば教育の場が元気になること間違いなし。(高)

まずは読売新聞に掲載された投書をお読みいただきたい。「新聞を読むことが欠かせない習慣になっている私にとって、新聞のない生活は考えられません。」



毛利 禎晴

札幌丘珠高教諭

新聞嫌いをつくらない

しかし、頭の中に何も残しません。自分の目で活字を追えば強く記憶に残るのに。3日目、新聞を読まない生活をしていると、世の中の動きから取り残されていくような気がしてきました。居ても立ってもいらなくなり、近所のコンビニに新聞

間を購読してないのである。先日、新聞販売店の方と話す機会があったが、新聞未購読の家庭が年々増え、購読者の夕刊離れも顕著だと嘆いていた。購読のPRで「新聞は子供の教育のために有益だ」というと「うちは子供には読ませ

日本の学校におけるNIE活動は、地味かもしれないが、とても有益なことであると考える。私が心がけていることは、「新聞嫌いを作らない」ことである。ともすれば、新聞を絶対視したり、「新聞先にあるような実践家に出会うことがある。何

を買いに行きました。自宅に戻った晩は、ゆっくりと新聞を読み、久しぶりに熟睡できました。これは、埼玉県の50歳の主婦の投書である。これを読んでも、みなさんは何を感じたでしょうか。このような主婦の子供さえ、何らかの事情で新

ていない」と言う家庭が多いそう。数年前、NIE事情を視察してきたデンマークでは、家庭で新聞を題材に語り合うことが当たり前になっていた。ファシズムに対する防止が背景にあるとのことだった。そういったことを考えると、

込むことは、逆に新聞嫌いを作ることがある。だからこそ、計画的かつ効果的に新聞を授業に取り入れることが肝要なのである。その上で、児童生徒に「新聞の良さ」を少しでも実感させたい。それが、私の理念であり、目標でもある。

先日、嫁の出産で、息子に家に1週間ほど手伝いに行きました。息子の家では新聞をとっていません。テレビをつけければ世間で話題になっている事件や事故の報道が見られます。

札幌丘珠高教諭

札幌丘珠高教諭

札幌丘珠高教諭

「スピーチで伝える心養う」

2地区で 小学校の公開授業も セミナー

北海道NIE推進協議会主催のNIEセミナーが7月1日と13日に、それぞれ函館と釧路で開かれた。本年度の地区セミナーのトップを切った函館では、北海道新聞社の多目的取材車「ぶんぶん号」が初めて出動し、セミナーの内容を速報した。

●函館

北海道新聞函館支社で開かれた第5回函館セミナー



ナーには20人が参加、3人が新聞を活用した授業の実践発表をした。函館市中部小の石井望教諭は地域素材の教材化に取り組み、4年生の社会科の授業で1934(昭和9)年の函館大火について、函館新聞の特集などを使った体験を報告。「児童たちは、身近な新聞の多角的な活用例について意見を交わした函館セミナー」

●釧路

釧路市鳥取小で開かれた第5回釧路セミナーでは、地区セミナーでは初めての公開授業を行い、約30人の出席者は子供たちの生き生きとした学習ぶりに感心した。



掲載された作文を読みながら、書き方のポイントを学ぶ6年生たち。鳥取小公開授業で、中原教諭は「作文が好きな子供たちにとって、投稿欄の字数(300)は適当で、取り組みやすい」と説明した。

また、標茶町標茶中の秋山豊教諭は、投稿文を書く前に構想メモ作りを生徒たちに勧め、投稿欄の掲載がきっかけで作文への関心が高まり、それが就職活動の刺激にもなる」と生徒たちの反応を報告した。

NIE全国大会に参加して

横田 泰正

抜き、児童生徒がそのニュースへの思い、意見を発表していく。



茨城新聞社の友末忠徳社長が「水と緑と文化の街」と胸を張ったように、水戸は美しい街だった。この地で開かれたNIE全国大会に初参加した。大会2日目の公開授業が印象的だった。県民文化センターに、小学校、中学校、高校の教室がそれぞれに設けられた。もちろん教材は新聞。興味を持った新聞記事を切り

水戸市内原中のこの日のテーマは「平和」だった。「ちいさな子も国のために働いていた。学校に毎

教育界と新聞界が両輪

前日の討論会でパネリストを務めた折本正巳教諭が発言要旨をまとめている。次々手が挙がった。大勢の見学者がいたのだけど、生徒は臆(おく)すことなく堂々と意見を

力、表現力が芽生えていることを実感した。ただ、その先進県でさえ家庭の新聞離れは顕著といえ、NIE活動も、熱心な教員の努力に支えられていくことを知った。

また、推進協議会の未設置県が4つ。ある県の校長はNIEを「ニイ」と発音、さらに関心を持った教員が実践例探しに苦労している県もあるなど全国的には認知度、浸透度にばらつきがあるようだ。NIE20年の歩みもまだまだ発展途上ということなのだろう。

とはいえ、公開授業風景は刺激になった。教育界と新聞界が両輪となって推進されるNIE。新聞社の役割を改めて考えてみる時間になった。(苫小牧民報社・編集局 編集総務)

漢字の成り立ち学習

新聞教育研究大会で実践発表

4コママンガを英訳

「言葉の力を育む新聞教育」新聞づくり・新聞利用を通して」をテーマ

秦野市の学校は新聞づくりが盛ん。「学校」「学級」新聞をそれぞれ月2回発行し続けている地元中学の実践発表もあり、その熱心さが参加者らを驚かせた。なお、開会式の各種表彰では、北海道からは昨夏まで4年間、全国協議会副会長を務めた若山茂樹・前十勝新聞教育研究会会長が功労者として表彰された。節目となる来年の第50回大会は、東京で開かれる。

(北海道新聞NIE推進センター委員・栗原隆)

に、第49回全国新聞教育研究大会(全国新聞教育研究協議会主催)が8月3、4の両日、神奈川県秦野市で開かれた。北海道からの8人を含む約300人が教育への新聞活用をめぐる、熱い議論を交わした。新聞づくりに重点を置いた大会だけに初日は小学、中学などに分かれ、新聞制作の講習・実習が中心。2日目は「学校・学級新聞づくり」「NIE・総合」など5分科会に分かれて実践発表。提案者として北海道からは幕別町糠内小の池田圭子教諭が新聞から漢字を抜き出して漢字の成り立ちを学ばせる実践、札幌国際大の山西敏博助教授が新聞の4コママンガの英訳などを通して英語表現力と社会への関心を培う実践を発表して注目された。秦野市の学校は新聞づくりが盛ん。「学校」「学級」新聞をそれぞれ月2回発行し続けている地元中学の実践発表もあり、その熱心さが参加者らを驚かせた。なお、開会式の各種表彰では、北海道からは昨夏まで4年間、全国協議会副会長を務めた若山茂樹・前十勝新聞教育研究会会長が功労者として表彰された。節目となる来年の第50回大会は、東京で開かれる。

時事問題や社説スクラップ

「第四新聞」社会科で活用

札幌・東海大学付属第四高校

東海大学付属第四高校では、社会科担当の教諭たちが、2年前からスクラップ新聞「第四新聞」を週1、2回のペースで制作、一年生の必須科目「現代社会」の中で教材として活用している。授業の内容をリポートする。
(北海道新聞NIE推進センター
委員・小田原賢二)

「第四新聞」を参考に、自民族中心主義について学んだ授業



スポーツ絡め話題身近に

実践校
リポート

新聞作りは現在、社会科担当の石塚公二、久住知弘、岡本理美の3教諭が協力し、切り抜いた新聞記事を縮小して、B4 A3判の紙に張り付け、独自のコメントなども付け加えている。スポーツが盛んな高校なので、スポーツ紙の記事も必ず掲載している。
石塚教諭の授業では、自国の文化を絶対視して

うため、サッカーの練習試合で交流のある北海道朝鮮初中高級学校の生徒たちの日常が、この事件後厳しい環境に置かれることなどを具体的に説明した。生徒たちは、関連記事を読み上げて、両国間の相互理解と協調の精神が必要なことについて意見を述べていた。

とらえており、道新、朝日、読売の3紙の社説をそれぞれ読み比べて、多面的に見て判断するよう生徒たちに求めている。
石塚教諭によると、学習テーマごとに、タイムリーな時事問題を取り上げることで、生徒たちの理解も早まり、新聞記事を読む習慣も身に付いていくという。
同校では、NIE実践校として提供を受けている新聞2紙を全生徒が閲覧できるように職員室前の廊下に展示している。特に新聞に接する機会が少ない一、二年の寮生の関心が高く、昼休みや休憩時間に立ち読みしている姿が多く見られた。



新聞教材の開発と活用などを論議した実践交流会
……について講演、続いて水戸市で開かれたNIE全国大会
について、足寄町芽登小の野上泰宏教諭と札幌市月寒中の三上久代教諭がそれぞれ報告した。

DB利用が効果

NIE実践交流会で報告

異文化を過小評価したり無視したりする「エスノセントリズム」(自民族中心主義)を理解する参考に、第四新聞を使っていた。

紙面は、北朝鮮のミサイル発射関連と在日朝鮮人の反響、社説などの記事の特集号。石塚教諭はミサイル発射を身近な問題として受け止めてもら

北海道NIE研究会(会長・日下部憲一札幌市米里中学校長)主催の第1回実践交流会「夏季研修会」が、8月18日、北海道新聞社NIEプラザで開かれた。札幌市内の

小中教員ら30人が参加、新聞教材の活用や教育効果について活発な意見を交わした。
研修では、時事通信社札幌支社の小栗正徳支社長が同社の役割とNIE

データベース(DB)の利用をリポート。札幌市内の中学校でDBが十分利用されていない点を指摘し「検索サイトと併せDBも自由に利用させたことで、生徒たちの関心も高まった」と報告した。
そのあと、DBの具体的な利用方法について北海道新聞メディア局の担当者から説明を受けた。

本年度実践校
道内43校確定
3年連続全国最多

本年度のNIE実践校は、7月19日に開かれた日本新聞教育文化財団のNIE委員会追加の第2次認定校が決まり、確定した。財団認定490校と地方推進協議会独自認定34校の合計524校で、昨年度に比べ、財団認定は14校、協議会独自認定は1校増えた。

道内の第2次認定校は札幌市平岡公園小、網走市網走小、浦河高(以上財団認定)、幕別町札幌小(協議会認定)の4校。

この結果、道内の実践校は、第1次認定校39校を合わせ43校(財団認定35校、協議会独自認定8校)となった。昨年度に2校上回り、過去最多に上った。都道府県別にみても、東京都の34校を上回り、3年連続して全国最多を数えた。

教員研修にNIE

授業プラン、記者が助言

岡山県では、NIEを行政が教員の研修に導入したり、中国地方ブロックの広域フォーラムが開催され、効果を上げている。こうした研修の様子を地元紙・山陽新聞社に寄稿してもらった。

山陽新聞と行政連携

講座やシンポ

岡山県教育センターがNIEを公的な教員研修に取り入れたいと言った。

当時は2004年初めだった。当時、センターでは研修カリキュラムを何にするかと探していた。県教委のNIE担当者を通じて話が、

進路協議会事務局長の私が話をした。翌年の05年8月には、この研修に加え、県立図書館で「活字メディアを使った授業づくり講座」が企画され、小中高3人の教員がNIE実践発表をした後、記

日本新聞教育文化財団・NIE第一専門部会がまとめた2005年度「NIE効果測定調査」によると、児童・生徒たちの新聞読頻度がNIEの実践前に比べ確実に増えており、読書習慣が芽生えていることが明らかになっている。

読書頻度(毎日、時々読むの合計)では、小学生が実践前から6.9%増え81.9%に。中学生は4.7%増えて74.9%に。高校生は2%増えて68.6%に増加した。読書時間も実践前には、「5分未満」

芽生える新聞読書習慣

が約半数を占めていたが、実践後はこの層が減少し、「5-15分」「15-30分」の読書時間層が増えている。

よく読む記事については、小学-高校生のいずれ

時間も増加傾向

でも「事件・事故」の順位がアップしており、NIEの実践で、子供たちの目が社会に向けられるようになってきている。

情報源として最も利用しているのはテレビ・ラジオ

昨年度NIE実践効果調査

オで、インターネット、新聞の順。ただ、地域・地元のニュースの情報源については、家族が相変わらず一番多いが、NIE実践後は、新聞の順位が上がった。また、実践後には、新聞記事をきっかけに家族や友人と話し合う機会が増えている。

この調査対象は、2005年度の新規NIE実践校226校の児童・生徒及び教師。児童・生徒に対してはNIE実践前後の2回に分けて回答を求めた。調査期間は2005年9月1-2006年3月。

お知らせ

北見で9月30日
地区セミナー

北海道NIE推進協議会主催の第4回NIE北見・オホーツクセミナーは、9月30日午後1時から

北海道新聞北見支社(北見市幸町1丁目2)で開かれる。

北見、網走両市の小中高校でNIEに取り組む次の4教諭が実践報告する。問い合わせは同協議会事務局へ。

▽網走市網走小、本間寛太教諭▽北見市北小、名雪克己教諭▽北見市小泉中、山崎健太郎教諭▽網走市陽高、小野聖絵教諭



中国地区NIEフォーラムで討論するパネリスト

裁判所見学など一連の社会科研修の一部として、山陽新聞社内を見学した後、NIEの話

者を変えてのシンポジウムをした。

この講座は今年も8月3日、同じ県立図書館で行われた。教員25人は3グループに分かれ、新聞や図書資料を使って授業プランを立て、それを記者がアドバイスした。

県教育センターの研修には、日ごろNIEに接していない教師も多く参



中国フォーラム

今年是中国地方の教員を対象にしたNIE中国地区フォーラムも8月9日、山陽新聞社本社で開かれた。NIEの発展と交流を図ろうと5県の推進協議会が協力して04年に広島県の中国新聞社で初開催していた。

今回のテーマは「新聞の魅力再発見」。05年に施行された文字・活字文化振興法に詳しい山口県出身の元文科相・河村建夫さんが講演した後、岡山、山口、広島県の教師

山陽新聞記者が討論した。岡山県の高校生もパネリストで加わり「NIEは楽しくなければいけない

編集後記

○…NIE全国大会で、常陸大宮市第一中の小野瀬容子教諭が教える「スクラップ新聞」の授業を見て感銘を受けた。切り抜きプラス自分で取材した記事・意見・感想、さらに内容にぶさわしい見出しも工夫している。

○…つまりスクラップ活動と新聞作りを上手に合体させている。「新聞活用と新聞作りは、いわばNIEの両輪みたいなもの。二つの授業を橋渡しする良い例」と出席者の評価が高かった。

○…しかし、実践には家庭の協力が大事な要素。報告では、授業を進めるうちに、テーマを絞り込んだり、親にひと書きしてもらうようになったという。親子間の橋渡しにも役立っている。

○…道内でも、この新聞づくりを実践する先生たちはいるが、手間のかかる作業だけに、数が少ないようだ。もう少し普及させられれば良いのだが。

今号から編集を担当します。よろしくお祈いします。(小田原)